

コロナ感染症学習と交流-岡山センター総会と講演- いのちと健康を守る運動の前進を！

12月19日、働くもののいのちと健康を守る県センター総会には32人が参加しました。

代表委員の清水善朗弁護士が「コロナ禍からいのちと健康を守る運動を今こそ大きくすすめましょう」と挨拶。

藤田弘起事務局長が運動方針、財政、役員体制等を提案し確認、承認されました。

アスベスト相談を継続、労災認定等-重工労組

重工労組玉野支部は、アスベスト相談を十数年続けて労災認定などを実現してきたこと、県センターも参加した相談の提起をと発言しました。



県労健康講座 医療・介護、保育、学校、行政などの活動を交流 新型コロナウイルスの基礎知識-大森健司氏が講演

総会前に開かれた県労健康講座「新型コロナウイルスの基礎知識」では、ソワニエ看護専門学校専任教員の大森健司氏が「新型コロナウイルスの基礎的な知識」と題して講演。発症、感染、PCR検査、感染対策などをわかりやすく解明しました。

続いて各団体からコロナ感染症に対するとりくみが報告されました。（講演する大森氏）



○医療・介護労働 森本忠春県医労連書記長

医療・介護職場では既に医師・看護師、介護士が削減され脆弱な体制の中でコロナに必死に対応している。外出、会食を控えるなどをするが、子どもの登園が拒否されるなども起きている。県にも繰り返し要請している。

○医療経営と受診抑制 民医連・風早和宏氏

コロナにより感染への恐れ、経済的困難で受診・来所が控えられてこれまでも厳しい経営がさらに悪化している。また失業、ひとり

親世帯、障がい等の世帯では経済的困窮で受診が遅れ重症化、手遅れを招いている。

○3蜜揃いの保育 岡山市職労・塩飽久美子氏

乳幼児には常時のマスク、しゃべらない食事、よだれ、鼻水など安全な感染対策は不可能な状況に加えこれまで以上の消毒等がある。規制緩和で定数超の園児を受け入れ濃厚接触は避けられず、充実を強く求めている。

○少人数学級こそ 高教組・豊田佳香書記長

コロナ一斉休校を県が国言いなりにはじめ夏休みが9日となった。マスクをしていれば「濃厚接触者」にならないがマスクを外すこともあり不十分だ。少人数学級を長く求め続けてきたが、国はやっと5年掛りで始めた。

○県・自治体の対策 みんなの会・森脇久紀氏

感染者が急増しているが検査が対応できていない。県の事業所支援金も21人以上で損失補てんがない。県立大学生に3万円の支援金が出来た。市町ではPCR検査支援、妊婦、高齢者、事業者などへの支援金などが出来ているが不十分だ。引き続き力を尽くしたい。